



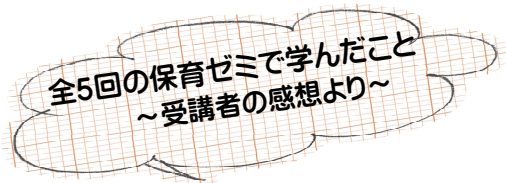
令和5年度 第5回 加藤繁美保育ゼミレポート

～実践記録から読み解く、子どもと保育士の対話的關係～

R6. 2. 27

和光市 保育センター発行

1月24日に第5回加藤繁美保育ゼミが開催されました。全5回の保育ゼミでは、受講者自身の実践記録をグループ毎に分析し、子どもの発達する姿を捉えながら関わっていくこと、子どもの声を聴きとることの大切さを学びました。加藤先生の助言をいただきながらの分析は新たな気づきを得ることが多く、保育の振り返りを行える研修となりました。この1年間で学んだことを職場内に広め、今後の保育実践に活かしていただけたらと思います！



実践記録を書くことで日々の保育について職員全体で振り返ることができるということを知り、時間のある時や月ごとに書いてみたいと思いました。また、子どもたちの遊びへの介入の仕方や年齢ごとに何が大切な時期なのか学ぶことができました。今後はそのことを活かして子どもたちの世界を壊さないよう関わっていきたく感じました。

記録をし分析する事で、普段の生活の中では見落としがちな事に気づき、子どもの行動や言葉を一方的からではなく色々な角度から見事で、マイナス面の記録から成長の記録になる事に気付かされました。この気づきを大切に振り返り、他の先生方との意見交換などして、保育に活かしていきたいです。

実践記録を書く根本的な意味や必要性を知ることが出来ました。又、記録を書く上で、どの子どもに焦点をあてるか、どの場面を中心に書くかによって、読み取り方が違ってくるので園で記録をする際には、しっかりと見きわめて書いていこうと思います。記録から得られる視点を保育でも意識して、声かけや遊びの展開に活用していきます。

子どもたちの声をひろい、保育活動につなげていくことの大切さを学び、「子ども主体の保育」を改めて知ることができた。また、子ども同士のやり取りを見て、両方の視点から受け止めることや声のかかけ方ひとつでその場の空気感が大きく変わることを実感した。現実世界、虚構世界どちらに子どもがいるのか、よく観察し世界をこわさないようにしていきたいと思った。子どもが自分で考え成長する場を保育の中で沢山作っていきたく。



全5回の保育ゼミでは、加藤先生からの助言が大きな学びとなりました。

「子どもとの具体的なやりとり(事実)の中で、こんなことは子どもを傷つけるな、こうやって励ますと子どものやる気が出るな、2歳だったらこんな世界が発達的な意味があるな等、保育の記録を職員間で語り合いながら学び、実践に活かしていくことが、子どもの幸せに貢献する保育の営みだと思います。」

保育ゼミの最後に加藤先生にお話していただいた言葉が心に響きました。加藤先生、1年間ありがとうございました。

グループ毎に
実践記録の分析を
行いました！



講義だけでなく、他の参加者の意見や思いを聴くことで、記録を深く掘り下げることができました。